

# 事業報告書

## たのしか、福岡！ たのしかばい、共働！ 「車いす利用者おでかけマップ」作成事業



今度も増やす  
分わけができれば  
が多く、より多く  
あ、おぼること  
していただき、お  
一貫性、アクセス  
方法、観光の楽しみ方を図柄にした観光マップを作成しました。  
福岡市では、平成23年から「みんながやさしい、みんなにやさしいユニ  
バーサル都市・福岡」をまっすぐの目標として掲げ、有数のひとつと  
して、その中で「誰もが安心して利用しやすいまち」の実現にも積極的  
に取り組んでいます。  
当マップは市外の観光客だけでなく、市内在住の車いす利用者にとっ  
ても、安心と楽しさを両立するように作成しました。このマップを手に取っ  
た多くの方が福岡市を笑顔で楽しんでいることを心から喜んでいます。  
このマップを制作するにあたり、関係機関、市民、ボランティア、観光客の  
ご意見を参考に制作しました。

**ユニバーサル都市・福岡とは？**  
ユニバーサルデザインが身近に感じられ、誰もが安心して利用でき、すべての人  
が楽しめることです。

- 車いす利用者  
● 高齢者  
● 外国人  
● 障害者  
● 妊婦  
● 小児  
● 高齢者  
● 外国人  
● 障害者  
● 妊婦  
● 小児

「一人物」  
が、福岡の入り口に訪れたい、買い物も楽しみたい、歴史も楽しみたい、でも、外には歴史  
が、福岡の入り口に訪れたい、買い物も楽しみたい、歴史も楽しみたい、でも、外には歴史  
が、福岡の入り口に訪れたい、買い物も楽しみたい、歴史も楽しみたい、でも、外には歴史



- A 博多** 買い物だけじゃない、歴史も魅力的 ⇒ P04-05
- B 天神** 食事に買い物、乗り物も楽しめる ⇒ P06-07
- C シューゲイどもち** 野球観戦、福岡市を一望するならココ ⇒ P08-09
- D 海の中道** 海風を感じながら、自然消費 ⇒ P10-11
- A 博多駅からの所要時間**

車いす利用者おでかけマップ作成実行委員会  
NPO 法人あすも特注旅行班  
保健福祉局政策推進課、経済観光文化局観光産業課



# 「車いす利用者おでかけマップ」作成事業について

車いす利用者おでかけマップ作成実行委員会

## (1) 共働のきっかけ・必要性

多くの車いす利用者は、出かける前に目的地のバリアフリー情報を必要としている。しかし、バリアフリーに関する情報は社会的に不足しており、情報を得られないことで出かけることをあきらめてしまう人がある。福岡市ではバリアフリーに対応した施設や店舗情報の一部をホームページ上で公開しているが、施設や店舗までのアクセス方法や詳細なバリアフリー情報は掲載されていない。また関係局には、車いす利用者から市内観光地等についての問い合わせが寄せられているが、情報不足により十分な対応ができていない現状があった。



## (2) 事業目的

車いす利用者の視点に立った市内観光地等へのアクセスマップを作成・配布することにより、車いす利用者の福岡市来訪の機会拡大と市内在住の車いす利用者の外出支援を図り、バリアフリーの観点から「ユニバーサル都市・福岡」の理念を実現する。また、ソフト面（心・人的サービス）のバリアフリー啓発のために、作成したマップを活用したモニターツアーなどを企画・実施し、その成果を検証する。

## (3) 事業内容

【①車いす利用者の視点に立った市内観光地等へのアクセスマップの作成・配布】  
掲載する観光施設などの選定については、福岡に住む車いす利用者やその家族にアンケートを実施した（90名から回答）。その後、掲載する施設などへアクセス方法も含めた現地バリアフリー調査を実施し、車いす利用者にとって有益な情報をマップに掲載した。また、車いす利用者や一般市民との意見交換会を開催し、当委員会だけでなく、車いす利用者や一般市民の意見をもとに、マップを作成した。



### 《事業成果》

・施設の観光情報、バリアフリー情報、アクセス方法を掲載した観光ガイドマップが完成した。当マップは、福岡市内の観光案内所や福岡市役所、区役所等へ配架し、全国各地の介護付き旅行会社やバリアフリースターセンター※に郵送した。また、福岡市役所やNPOのホームページ、SNSで情報発信を行い、必要としている多くの人に届けられるような工夫を行った。

（※バリアフリースターセンター：障がいのある旅行客に、地元のバリアフリー情報などを提供する相談センター。主に健常者が運営しているが、中には車いす利用者の相談員もいる。）

・マップ作成によって、車いす利用者の福岡市来訪の機会拡大につながるのか、を評価するため、全国のバリアフリースターセンターにアンケート調査を行った。その結果は、「マップを見て、福岡市に行きたい・紹介したいと思いませんか？」という問いに対して、37名中32名（86%）が「はい」と回答した。この結果により、当マップを見た全国の車いす利用者が、今後、福岡市に来訪する可能性は非常に高いと考えられる。また、魅力を感じた点として、分かりやすい、トイレの情報が細かくて良い、乗り物情報が魅力的（オープントップバス等）との評価が多く得られた。バリアフリーの情報だけでなく、福岡市観光の楽しみ方も伝えられた。

## 【②モニターツアーの開催】

11月に20名の参加者（車いす利用者11名）とともに実施。作成中のマップを利用した街歩きに参加してもらい、マップについてのヒヤリングを行った。また、健常者の参加者に対して、車いすの操作方法をレクチャーし、2名の車いす利用者と共に街歩きを実施した。その際、健常者も車いすに乗車し、自走したり他の参加者の移動を介助したり、されたりしながら、車いす体験を通してソフト面のバリアフリー普及に取り組んだ。

### 《事業成果》

- ・事業に関わりの無かった市民の参加があり、バリアフリーの啓発が進んだ。
- ・モニターツアーの満足度は100%と非常に高かった。
- ・テレビ局の取材が入り、15日間にわたって放送され、多くの人に当活動およびバリアフリーの必要性を伝えることができた。



検証・体験の終了後 参加者による意見交換

J:COM チャンネル（11月16日～11月30日放送）

## （4）NPOと市の役割分担

### 【保健福祉局政策推進課・経済観光文化局観光産業課】

#### ○関係団体との調整

- ・障がい者団体へのアンケートやモニターツアーへの参加、協力依頼
- ・観光施設、公共施設などへのバリアフリー調査依頼、撮影依頼、撮影の同行、掲載許可依頼、マップ掲載施設の検討

#### ○広報

- ・市政だより、ユニバーサル都市・福岡フェスティバル2017へのモニターツアー参加者募集の記事掲載
- ・福岡市ホームページへのマップ掲載、電子書籍のリリース、官公庁舎、観光案内所へマップの配架、記者発表会の開催

### 【NPO法人あすも特注旅行班】

#### ○バリアフリー調査と撮影

- ・掲載許可が得られた施設などへ調査と撮影

#### ○スケジュール作成と各種企画

- ・撮影スケジュールやモニターツアーのスケジュール調整、アンケート集計
- ・障がい当事者との意見交換会の企画、実施、モニターツアーの企画

#### ○広報

- ・全国にある介護付き旅行会社やバリアフリーツアーセンターへのマップの配布
- ・ホームページやSNSでの情報拡散、問い合わせへの対応



## （5）担当者の声・市民の声

延べ153名がアンケートや意見交換会、モニターツアーを通して、当事業に参画してくれた。福祉関係者ではない、一般の参加者もあり、マップ作りを通して、多くの方に当事業を知らせることができた。モニターツアーでは、今まで車いす体験をしたことがなかった方から、「多くの気づきがあった。楽しかった。」などの感想が得られ、ソフト面のバリアフリーが普及していくのを実感した。反省点として、委員会内でコミュニケーションは取れていたが、市役所とNPOとの立場の違いにより、マップ作成に予想以上の時間がかかってしまい、行政・NPOともに負担が生じてしまった。より、計画的に進める必要があった。

## （6）30年度への展開

### ＜共働事業終了＞

それぞれの部署や団体で事業の成果を活用する。たとえば、マップを活用した街歩きツアーをNPO独自で開催する等し、マップの広報を行っていくとともに、ソフト面（心・人的サービス）のバリアフリー普及を目指す。